吉田達弘（よしだ たつひろ）
文化表現系教育コース［言語系教育分野（英語）］准教授

QUESTION & ANSWER

現場の課題にお答えします！

小学校の英語教育が教科化され、3年生から始まると聞きました。そうなると教員の指導方法も変わってくるのでしょうか。

文部科学省は昨年12月13日に「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」を発表しました。現在、小学5・6年生で「外国語活動」が週1時間行われていますが、このプランでは3・4年生で週1～2コマ程度、5・6年生では教科として週3コマ程度を実施する案を提示しています。授業時数や教育内容の変更は、これから中央教育審議会で議論されますが、かなり踏み込んだプランです。また、今回のプランは小学校だけでなく、中学校、高校の英語教育の在り方にも言及しています。

今回のプランが実行されると、外国語活動の枠組みは大きく変わってしまうことになりますが、授業づくりをお手伝いしてきた立場としては、まずは、現在の実践の成果や課題が何かを十分に検討すべきだと考えています。実際、私自身、地域の小学校で優れた外国語活動の実践に出合うことが多くなりました。一方で課題も山積です。例えば、学校間で取り組みの差はありますし、特に指導者の養成・研修の充実は急務です。こういった成果や課題を見極めずに改革に向かうことには危険性を感じます。

しかも、今回のプランには「東京オリンピック開催に合わせて…」という表現が見られます。このことで思い出すのは北京オリンピックが開催された時、中国で英語熱が高まり、オリンピックに関する英語教材が多数作られたことです。その中国では最近になって、低学年から始まる英語学習を見直す動きが出てきました。英語学習が過熱化し、児童の大きな負担になっているためです。グローバル化の問題は避けられませんが、まずは現在の外国語活動を充実させ、より良い授業づくりを考えるべきですし、兵教大でもそういった取り組みをサポートしたいと考えています。

キャンパストピックス
CAMPUS TOPICS

東日本大震災 復興支援ボランティアを実施

昨年9月17日、学部生・大学院生25人が宮城県へ出発。20日までの4日間、南三陸町の漁港で養殖用いかだのおもりに使う土のうを約1,800個作り、農地では草抜きやガレキの撤去にも取り組んだ。11月13日には加東キャンパスで報告会を開催し、参加学生は活動の内容や復興の様子などを紹介した。

附属中の小寺さんの作文が県審査で優秀に

附属中学校1年の小寺康太さんの作文「うさぎ島」が、「第63回全国小・中学校作文コンクール」兵庫県審査の中学校の部で優秀に選ばれた。同作は広島県の大久野島（通称ウサギ島）の戦争の悲しい歴史とそこに生きるウサギたちの姿から学んだことについて書いたもので、368編の応募の中から表現力や構成力などが評価された。

附属幼稚園のPTA活動が県教育委員会から優良表彰

附属幼稚園のPTA活動や附属三校園おやじの会等の活動が家庭や地域の教育力の向上に顕著な功績を挙げたとして、兵庫県教育委員会から優良表彰された。昨年10月29日の表彰式には篠原朋子、片岡愛PTA両副会長ら4人が出席し、高井芳朗兵庫県教育長から表彰状を授与された。